

天野先生とご一緒できた幸い

平松 一夫

さまざまな局面で私を啓発してくださった天野明弘先生。天野先生と折に触れてご一緒できたことは私にとって大変幸いなことであった。感謝にたえない。

天野先生には実に多くのことを学ばせていただいた。私の目には、天野先生は常に冷静に淡々と話をされているように見えたが、ひとたび話題が総合政策学部にあぶと語りは明らかに熱を帯び、時として大学や学院の対応にいらだちすら覚えておられる様子が伝わってきた。一所懸命なその静かな迫力にはすごさを感じたものである。

ここでは、私が天野先生に接することができたいくつかの局面について紹介し、先生の思い出を語らせていただくことにしたい。

1. 国連セミナー

現在、関西学院大学では国連と共同で多くのプログラムが実施されている。国連セミナー、国連学生ボランティア、難民を対象とする推薦入学制度、国連人口基金インターンシップなどは、関学がパイオニアとして国連機関と共同で開発してきたプログラムであり、関学の国際交流の大きな特色となっている。

その端緒となったのが1997年から始まった国連セミナーであることはよく知られている。また、そのために大きな貢献をされたのが田島幹雄先生であることもよく知られている。実は、国連セミナーを大学として始めることになった背後には、天野先生のご尽力があったのである。

私は1994年から国際交流部(現在の国際教育・

協力センター)の副部長を務め、96年から1年間は部長を務めた。ある時、天野先生がやって来られ、田島先生を中心に国連セミナーを開催したいので協力を、と要請された。天野先生直々のご提案である。この案は直ちに実現に向けて動き出すことになり、現在では全学的なプログラムとなっている。天野先生の一言のお陰で、私も国連セミナーの開始に多少なりとも貢献できたわけで、天野先生には感謝している。

国連に関係するプログラムは、その後もとりわけ総合政策学部村田俊一先生、西本昌二先生というよき後継者をえて充実・発展することとなった。国連セミナーへの久保田哲夫先生の協力も忘れることができない。

2. 神戸三田キャンパス

学部長の任期を終えられてからも天野先生のご発言がもつ重みは消えることがなかった。関学の構成員が天野先生に対して抱いている尊敬の念が、天野先生のご発言に力を与えていたのだと思う。

天野先生は総合政策学部に関する大学の施策に苦言(私にはそのように聞こえることも多かった)を呈されることがしばしばあった。それに応えて、上ヶ原での開催に偏重している会議が、稀にはあるが、神戸三田キャンパスで開催されたこともあった。

それでも大学の諸施策は学生数に比例してどうしても上ヶ原に偏りがちになる。神戸三田キャンパスをどのように発展させるのか。これは大学として引き続き取り組むべき課題であるが、そのことを思う度に天野先生のお顔を思い浮かべることになる。法人・大学の現執行部のみなさんも、私と同じように天野先生ならどう考えられるだろうかと、天野先生に思いを馳せられるに違いない。

3. 関西生産性本部

2003年5月、私は公益財団法人関西生産性本部の副会長に就任した。その職はいまも続いている。学界から関西生産性本部の副会長に就任するのは一人だけであり、私の前任者が天野先生であった。おそらく天野先生が後任に私を推挙されたのだと思っている。

関西生産性本部では企業、労働組合、学界人が役員を務めており、他の経済団体と異なり教育面にも力を入れてユニークな活動を展開している。

その関西生産性本部で副会長を務めていると、企業や労働組合で指導的立場にある方々との交流の機会が多くある。天野先生は、関西にあって関西学院大学がとりわけビジネスの世界で貢献することを期待されて、私にそういう機会を与えられたのではないかと思う。であるならば、私の責任は随分と重いものになる。私としては、力不足は承知の上で、できるだけ天野先生のご期待に応えられるよう尽力しなければならないと考えている。

4. 兵庫県立大学

天野先生が関学を定年退職されてからも、先生とご一緒する機会を持つことができた。2007年、私は兵庫県立大学の評価委員に就任したが、その時、天野先生は同大学の副学長を務めておられた。

評価委員は、その大学の改善に資すると思われることがらについてさまざまな意見を具申する。会合では大学幹部の一員として天野先生が熱心に耳を傾けておられたのが印象的であった。と同時に、これまではもっぱら私が天野先生のご意見を伺う形だったのが、この時は逆の形で、それがなんとも不自然に感じられたのを記憶し

ている。

私はまた、兵庫県立大学に会計大学院を設置するにあたり、外部委員を委嘱された。関西学院大学は全国で最初に会計大学院の設置を決めた大学でもあるし、たまたま私が会計学者であるので、そのような役回りを依頼されたのであろう。開設のときにも私は招かれて挨拶したが、この時も天野先生とのご縁を強く感じたものである。

5. 教育・研究に関する余録

いうまでもなく、天野先生のご功績を行政面にしばって論じるのは適切ではない。天野先生は優れた研究者であり、教育者であった。教育・研究面でも、私は天野先生に間接的に世話になっている。会計学を専門とする私のゼミに所属した元学生の2人が今回、環境のテーマで追悼論文を書かせていただいている。そのうちの一人は大学院で天野先生から直接ご指導を受け、もう一人は研究面で天野先生から学問的・人格的な感化を受けた者である。会計学専攻の私のゼミ生だった学生が、のちに天野先生の薫陶を受ける機会を得たことも、私にとって嬉しく幸いなことであった。

天野先生が関西学院に奉職されていた期間は決して長くはなかった。しかし、その間に天野先生は確かな情熱をもって総合政策学部を立ち上げ、育てられた。まさに関学と総合政策学部のために奮闘されたといつてよい。もちろん、亡くなられた安保則夫先生をはじめとして、情熱のかたまりのような多くの教員や職員に支えられてこそ、天野先生のお力が発揮されたのだろうとは思いますが、それを可能ならしめたのはやはり天野先生のお人柄をふくむ総合的なお力であったのだと思う。

関西学院がしたことの中でよかったと思うこ

との一つに、名誉教授の授与に関する規程の改定がある。それまでの規程を改定し、短期間の在籍であっても顕著な貢献があった者に対して名誉教授の称号を授与する道を開いたことであった。

表だっては言わないとしても、それが天野先生のご功績を意識しての改定であったことは、誰もが認めるところである。

天野先生に接したすべての者が感じたであろう情熱から、私自身も多くのことを学ばせていただいた。天野先生は逝かれても、関学と総合政策学部を見守ってくださるに違いない。いまでも天国で情熱と愛情をもって関学に対して「苦言」を呈しておられるかもしれない。私どもは、その思いに応えるべく努力する責任がある。力の及ぶ範囲で全力をもってその責任を果たすことをお誓い申し上げて、天野先生への感謝と追悼の一文としたい。

天野明弘先生、ありがとうございました。

平松一夫(ひらまつ かずお 関西学院大学商学部 教授)